

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
13	小池 義治（10）	<p>1. 結婚支援事業が少子化対策推進費として支出されている問題</p> <p>未婚男女のマッチング支援サイト「ハッピネスF U J I」の運営などを行っている本市の結婚支援事業は、令和2年度予算の中で3款民生費3項児童福祉費1目児童福祉総務費004少子化対策推進費の中の一つとして、こども未来課が担当している。</p> <p>平成29年9月定例会で市長は、「全国的な少子化傾向は本市においても同様であり、その主な要因として、未婚化や晩婚化があります。結婚や妊娠、出産につきましては、個人の自由な選択や価値観が優先されるものではありませんが、少子化による人口の減少は、将来にわたり持続可能な社会を維持していくためには、克服しなければならない喫緊の課題であります。このため、従来の子育て施策に加えて、これまで行政が立ち入りにくいと考えられてきた個人の領域である結婚という分野においても、積極的に支援を行っていく必要があると考えております。」と述べている。</p> <p>富士市民がそれぞれの幸福を求める人生の、数多ある選択肢の一つとして結婚があり、未婚男女の出会いの機会を創出してほしいという市民ニーズが存在することは、過去に富士市議会でも幾度か取り上げられており、結婚支援事業の是非をここでは問わない。しかし、この事業が少子化対策推進費という大事業項目名で支出され、「結婚」と「子を産み育てる」ことを結びつけていることは、男女が互いの理解の下で、妊娠、出産その他健康に関してそれぞれの意思が尊重されたとした富士市男女共同参画条例の基本理念に照らして、適切でないと思う。</p> <p>以下、質問する。</p> <p>(1) 結婚相談・縁結び事業を公費で行う意義は何か。</p> <p>(2) 結婚相談・縁結び事業を「少子化対策」として行うことは、将来的に妊娠・出産を望まない、または身体的な理由等でできない当該事業参加者に対して、著しく配慮を欠いていると感じるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 次年度以降も結婚支援事業を続ける場合、この予算の科目をほかのものに変更すべきと考えるがどうか。</p> <p>2. ふじさんめっせを新しいワークスタイル推進の拠点として活用してはどうか</p> <p>コロナ禍において急速にテレワークが進み、週に1日か2日は東京圏に新幹線通勤し、残りは在宅勤務というような柔軟なワークスタイル（働き方）をする市民が増えている。本市の将来的な発展のためには、こうしたワークスタイルを支援し、本市の強みとしてPRすべきと考える。</p> <p>一方で、新富士駅にほど近いふじさんめっせは、コロナ禍においてイベント中止が相次ぎ利用が激減しており、富士市議会6月定例会及び9月定例会では、指定管理者の支援のた</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
13	小池 義治（10）	<p>めに計2000万円の補正予算を手当てした。</p> <p>まだしばらく続くと思われるウィズコロナの期間において、ふじさんめっせを新しいワークスタイル推進の拠点として活用してはどうか。以下、質問する。</p> <p>(1) 400台以上収容可能なふじさんめっせ駐車場のうち数十台分を、新幹線通勤をする市民に安価に月貸しし、指定管理者の収入としてはどうか。</p> <p>(2) 先導的テレワーク移住者支援補助金の利用者に、ふじさんめっせ駐車場を一定期間、無料で利用できるような特典を付与してはどうか。</p> <p>(3) 会議室の一部を簡易なワーキングスペースとして市民に提供したり、産業支援機関を設置するなど、ふじさんめっせをビジネス拠点として活用してはどうか。</p>	市長 及び 担当部長